

学校点描

数日前から熊の出没が報告されています。地震、大雨などの自然災害の中に、熊も学校の安全を脅かすものになります
《M中学校》

NO.4

R5. 5. 24

担当：校長

5月13日（土）に、M町民運動公園会場において地区中学校駅伝大会が開催されました。インフルエンザの影響もあり、女子は残念ながら棄権となりました。男子は12校中、第9位となりました。K・Kさん、I・Fさん、A・Kさん、O・Rさん、S・Kさん、A・Gさんが、一生懸命たすきを最後まで繋いでくれました。

グラウンドでの活動の際は、愛宕山に向かって数発スターターピストルを鳴らしています。熊の出没も、人間にとっては、迷惑な話ですが、熊にとっても今の環境は生きづらい迷惑な環境になってしまったのでしょう。熊と出合わないようにすることが一番の対策です。

戦禍の国の大統領

第一章

テレビでは、今まさに母国が「核の脅威」にさらされている国の大統領が広島にやってきたことを特集番組で報道しています。戦禍の国の大統領は、被爆地・広島で何を思ったのでしょうか。

「歴史的に比較するのは不適切でしょうが、正直に言います。破壊された広島の写真は、今の私の国の街の写真にそっくりでした。広島よ。青と黄色の平和の国旗を掲げてくれてありがとう。平和でありますように」そう言って、いろいろな国のリーダーと夜遅くまで会談を終えた戦禍の国の大統領は、毎日ミサイルが飛んでくる母国に帰っていきました。



第二章

そう、あの大統領の国に戦争が始まったちょうど1年前のエピソードでした。

仕事から帰る途中、とあるコンビニに寄りました。最近は現金を持ち歩かなくてもスマホのアプリで支払いができて便利です。ソーシャルディスタンスで、床に貼っている足のマークにしたがって、レジ前に並びます。わたしの前には、すでに母親と小学校入学前の女の子が並んでいました。レジ打ちの店員の方は、10代くらいの女性です。レジの横には、戦禍の中で難民になった人々への支援を募る募金箱がありました。その時も、同じ地球の上で暮らしていて、普通に買い物ができて、物を手に入れることのありがたさを感じずにはいられません。一方で平成から令和になって、隣国からミサイルが日本付近に着弾する時代にもなりました。なんだか複雑な思いで買い物を済ませたことを覚えています。

第三章

Y形新聞の朝刊に県内の中学生の作文が掲載されていました。

「学校どうだった？」これは、僕が帰宅したときに、毎日母から聞かれることだ。僕はいつも「楽しかった」「面白かった」のどちらかしかその言葉に返していない。でも、その後に、母は「特にどこらへんが？」と聞いてくる。それを聞かれると、僕は「友達とたくさんしゃべったから」とか、「いろいろなことをしたから」という紙のように 薄っぺらい言葉しか出せない。ふと、疑問がわいてきた。「楽しいって、何だろう？」と。考えても思い浮かばず、頭の中が雲のようにふわふわとする感じがした。「楽しい」の中にも、いろいろなことがあるはずだ。でも、僕はそれをあまり考えず、「楽しかった」と言っていた。その日から僕は、できるだけ考え、薄っぺらい言葉だけでなく、辞書のように厚い、詳しく説明できる言葉で答えられるよう努力した。結局、本当の楽しさなんて分からなかったけれど、母が、あの質問をしてくれたおかげでいろいろな質問に少しでも答えられるようになった。だから母には、本当に本当に感謝している。

(山形県村山市立葉山中学校 2 年 大田蒼真：2022 年 4 月 23 日山形新聞朝刊より)

何気ない親と子の日常会話ですが、なんだかこんなところに、とっても大切なことが隠れているように思えます。

最終章

1 年前に出会った、とあるコンビニの話の続きです。

レジの前の母と子の後ろに並んで、順番を待ちます。よく見ると、小さな女の子は、手にお菓子とお小遣いを握りしめてレジに並んでいました。いよいよ自分たち親子の順番になったとき、その女の子は、じっとレジを見て考え込み、レジ横にあった募金箱にお金を入れて、お菓子を棚に戻して母親のもとに戻ってきたのです。



「いいの？」とお母さんが聞きます。「いいの、今日は我慢する」と言って、母と子は店を出て行きました。

この時代の平和とやさしさは日常の積み重ねの中で育っていくのかもしれませんが。

きりとりせん

ご意見・ご感想をお願いします。